

声明書の目的の概説

本文書の目的は、日常生活活動(ADL)が作業療法の実践領域にどのように関連するかについて述べることである。

ADL は人間作業の中の一つの組み合わせである。作業は、家族の中で、集団やコミュニティの一員として、人が個人として日々行うすべてのことであり、人生に意味と目的をもたらす、健康を達成したり維持したりする。

WFOT のポジション

世界作業療法士連盟(WFOT)は、作業療法士が日常生活活動に関連する領域におけるエキスパートであること、作業療法士が特有の技能を使うときには、ホリスティックアプローチをとることを保証する。この場合には、異なる状況における多様なクライアントと共に行動することになり、ここには家庭、職場、余暇の状況が含まれ、日常生活活動へのクライアントの参加や結び付きを向上するという目的をもつ。

作業療法にとってのポジションの重要性

この声明書は作業療法にとって重要である。それは、作業療法の基本的焦点が作業にあることを強調するからであり、作業には日常生活活動が含まれ(日常生活活動に限定されるものではないが)、作業療法士の専門性の現実的で重要な領域であると認識されている。

社会にとってのポジションの重要性

この声明書では、作業療法の日常生活への焦点化が、個人、集団、コミュニティの健康を促進するという独自の貢献を強調する。

ポジションの実質的論拠

作業療法士は作業におけるエキスパートと考えられている。これを拡大して考えれば ADL のエキスパートである。なぜならば、

- 作業療法という職業は、健康のための作業参加と結び付きの促進に基本的関心がある。
- 作業療法士は、障害があろうがなかろうが、日常生活活動を含む生活の日々の作業に参加することを、個人ができるように、評価法や介入法を使うことについての特別な教育を受けている。
- クライアントのニーズ、ADL の複雑性、状況との関連性を重視する実践のためのクライアント中心でホリスティックなアプローチをとる。

チャレンジとストラテジー

多様な保健医療実践の場面や状況において、作業や ADL という用語について違った理解や使用がされていることがチャレンジを生んでいる。ADL は何らかの目的によって分類される。たとえば、セルフケア、生産活動、レジャーといったように。セルフケア活動として ADL を説明する人もいる。「自分自身の体のケアをするといった活動 1」などというように。また、手段的日常生活活動(IADL)は、「環境と関わるような活動で、本質的に複雑であることが多い 1」と説明する人もいる。

このチャレンジに対応するために、作業療法士にとって重要なことは、

- 話し言葉でも書き言葉でも作業に焦点を当てた用語を使う。
- 作業への焦点化という独自性を促進するためのすべての機会を活用し、なぜ ADL 技能が適切とされるのかを説明する。
- クライアント中心を忘れず、クライアントのニーズや目標によって決定された ADL 技能に関わる。

結論

ADL のエキスパートとして、作業療法士は、クライアントが自分の作業を遂行し、結び付くことが可能になるようにするという重要な役割を担うことができる。その作業とは、意味があるもので参加を促進するものである。作業療法がクライアントの ADL 遂行と結び付きの可能化に関わる度合いは、実践の状況とクライアントのニーズによって決まる。

この文書は、2012年3月台湾で開催された WFOT 代表者会議で承認された。

<https://www.wfot.org/resources/activities-of-daily-living>

(2019年11月22日 吉川ひろみ・訳)

文献

James, A.B. (2009). Activities of daily living and instrumental activities of daily living. In E.Crepeau, E.Cohn & Boyt Schell, Willard & Spackman's Occupational Therapy 11th ed. (pp.538-578). Baltimore MD: Lippincott, Williams & Wilkins.